

DI ニュース

徳山医師会病院 薬局

TEL:0834-31-7716

FAX:0834-32-5349

e-mail:yaku@tokuyamaishikai.com

薬局ホームページアドレス <http://www.tokuyamaishikai.com/yaku/index.htm>

1. お知らせ

○レミッチカプセル 25 μ g(鳥居)の【**効能効果**】、用法用量に関連する使用上の注意が一部追記されました。
(下線部_____追記箇所)

【**効能効果**】

次の患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る)
血液透析患者、慢性肝疾患患者

～用法・用量に関連する使用上の注意～

・血液透析患者におけるそう痒症の改善の場合

本剤の投与から血液透析開始までは十分な間隔をあけること。[本剤は血液透析により除去されることから、本剤服用から血液透析までの時間が短い場合、本剤の血中濃度が低下する可能性がある。]

・慢性肝疾患患者におけるそう痒症の改善の場合

本剤の投与は1日1回2.5 μ gから開始し、効果不十分な場合に1日1回5 μ gへの増量を検討すること。

○サインバルタカプセル 10mg(塩野義)の【**効能効果**】、【**用法用量**】、**効能効果**に関連する使用上の注意、用法用量に関連する使用上の注意が一部追記されました。
(下線部_____追記箇所)

【**効能効果**】

1. うつ病・うつ状態
2. 糖尿病性神経障害に伴う疼痛
3. 線維筋痛症に伴う疼痛

【**用法用量**】

1. うつ病・うつ状態、糖尿病性神経障害に伴う疼痛

通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして40mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。

なお、効果不十分な場合には、1日60mgまで増量することができる。

2. 線維筋痛症に伴う疼痛

通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして60mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。

～**効能**・**効果**に関連する使用上の注意～

1. 抗うつ剤の投与により、24歳以下の患者で、自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、本剤の投与にあたっては、リスクとベネフィットを考慮すること。
2. 海外で実施された7～17歳の大うつ病性障害患者を対象としたプラセボ対照臨床試験において有効性が確認できなかったとの報告がある。本剤を18歳未満の大うつ病性障害患者に投与する際には適応を慎重に検討すること。
3. 線維筋痛症の診断は、米国リウマチ学会の分類(診断)基準等の国際的な基準に基づき慎重に実施し、確定診断された場合にのみ投与すること。

～用法・用量に関連する使用上の注意～

うつ病・うつ状態、糖尿病性神経障害に伴う疼痛に用いる場合、本剤の投与量は必要最小限となるよう、患者ごとに慎重に観察しながら調節すること。

○タリオン錠 10mg (田辺三菱)の【**効能効果**】、【**用法用量**】が一部追記されました。

(下線部 _____ 追記箇所)

【**効能効果**】

<成人> アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒 (湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症)

<小児> アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患 (湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症) に伴うそう痒

【**用法用量**】

<成人>

通常、成人にはベポタスチンベシル酸塩として1回 10mg を1日2回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

<小児>

通常、7歳以上の小児にはベポタスチンベシル酸塩として1回 10mg を1日2回経口投与する。

○ソル・コーテフ注射用 100mg (田辺三菱)の【**効能効果**】、【**用法用量**】が一部追記されました。

(下線部 _____ 追記箇所)

【**効能効果**】

1. 内科・小児科領域

○内数字は投与法を示す 注I参照のこと

(1)、(2) <変更がないため省略>

*印★印注II参照のこと

(3)アレルギー性疾患

気管支喘息 [⑩ ⑭]、アナフィラキシーショック [① ②]、喘息性気管支炎 (小児喘息性気管支炎を含む) [*③ ⑩]、薬剤その他の化学的物質によるアレルギー・中毒 (薬疹、中毒疹を含む) [*①*② *③]、蕁麻疹 (慢性例を除く) (重症例に限る) [*② *③]

(4)～(9) <変更がないため省略>

2. ～8. <変更がないため省略>

注I：投与法

- ①静脈内注射 ⑤軟組織内注射 ⑨結膜下注射 ⑬食道注入
②点滴静脈内注射 ⑥硬膜外注射 ⑩ネブライザー ⑭静脈内注射又は
③筋肉内注射 ⑦腹腔内注入 ⑪鼻腔内注入 点滴静脈内注射
④関節腔内注射 ⑧注腸 ⑫喉頭・気管注入

注II： <変更がないため省略>

【**用法用量**】

・ 通常、成人における用法・用量 (ヒドロコルチゾンとして) は下表のとおりである。なお、年齢、症状により適宜増減する。

用法 注射・注入部位	1回の用量 (mg)	1日投与 回数	緊急時 1回用量 (mg)
①静脈内注射	50～100	1～4	100～200
②～⑨ <変更がないため省略>			
⑩ネブライザー	10～15	1～3	-
⑪～⑫ <変更がないため省略>			
⑬食道注入	25	-	-

・ 気管支喘息 (⑭) における静脈内注射又は点滴静脈内注射の用法・用量 (ヒドロコルチゾンとして) は以下のとおりである。

(1) 通常、成人には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量100～500mgを緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 50～200mgを4～6時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

(2) 通常、2歳以上の小児には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量 5～7mg/kg を緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 5～7mg/kg を6時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

(3) 通常、2歳未満の小児には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量 5mg/kg を緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 5mg/kg を6～8時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

○ソル・コーテフ静注用 250mg(田辺三菱)の【**効能効果**】、【**用法用量**】が一部追記されました。
(下線部_____追記箇所)

【効能効果】

[ソル・コーテフ静注用 250mg、500mg、1000mg]

急性循環不全(出血性ショック、外傷性ショック)及びショック様状態における救急

[ソル・コーテフ静注用 250mg、500mg]

気管支喘息

【用法用量】

[ソル・コーテフ静注用 250mg、500mg、1000mg]

急性循環不全(出血性ショック、外傷性ショック)及びショック様状態における救急：

通常、ヒドロコルチゾンとして1回 250～1000mg を緩徐に静注又は点滴静注する。なお、症状が改善しない場合には、適宜追加投与する。

[ソル・コーテフ静注用 250mg、500mg]

気管支喘息：

(1) 通常、成人には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量 100～500mg を緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 50～200mg を4～6時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

(2) 通常、2歳以上の小児には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量 5～7 mg/kg を緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 5～7 mg/kg を6時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

(3) 通常、2歳未満の小児には、ヒドロコルチゾンとして初回投与量 5mg/kg を緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する。症状が改善しない場合には、1回 5 mg/kg を6～8時間毎に緩徐に追加投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

○ジフルカンカプセル 100mg(ファイザー)の【**効能効果**】、【**用法用量**】、用法用量に関連する使用上の注意が一部追記されました。
(下線部_____追記箇所)

【効能効果】

カンジダ属及びクリプトコッカス属による下記感染症

真菌血症、呼吸器真菌症、消化管真菌症、尿路真菌症、真菌髄膜炎

造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防

カンジダ属に起因する膣炎及び外陰膣炎

【用法用量】

成人 カンジダ症

通常、成人にはフルコナゾールとして 50～100mg を1日1回経口投与する。

クリプトコッカス症

通常、成人にはフルコナゾールとして 50～200mg を1日1回経口投与する。なお、重症又は難治性真菌感染症の場合には、1日量として 400mg まで増量できる。

造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防

成人には、フルコナゾールとして 400mg を1日1回経口投与する。

カンジダ属に起因する膣炎及び外陰膣炎

通常、成人にはフルコナゾールとして 150mg を1回経口投与する。

小児 カンジダ症

通常、小児にはフルコナゾールとして3mg/kgを1日1回経口投与する。

クリプトコッカス症

通常、小児にはフルコナゾールとして3～6mg/kgを1日1回経口投与する。なお、重症又は難治性真菌感染症の場合には、1日量として12mg/kgまで増量できる。

造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防

小児には、フルコナゾールとして12mg/kgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。ただし、1日量として400mgを超えないこと。

新生児

生後14日までの新生児には、フルコナゾールとして小児と同じ用量を72時間毎に投与する。

生後15日以降の新生児には、フルコナゾールとして小児と同じ用量を48時間毎に投与する。

～用法・用量に関連する使用上の注意～

造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防：

(1)好中球減少症が予想される数日前から投与を開始することが望ましい。

(2)好中球数が1000/mm³を超えてから7日間投与することが望ましい。

カンジダ属に起因する膣炎及び外陰膣炎：

本剤の効果判定は投与後4～7日目を目安に行い、効果が認められない場合には、他の薬剤の投与を行うなど適切な処置を行うこと。

2. 医薬品・医療機器等安全性情報

(No. 323)2015年5月 厚生労働省医薬食品局 【概要】

1 新バーコード表示の活用及び医療用医薬品のJAN/ITF コード表示の終了について

1. はじめに

医療用医薬品へのバーコード表示について、平成27年7月（特段の事情のあるものは平成28年7月）以降に製造販売業者から出荷される医療用医薬品には、JANコードやITFコードが表示されなくなり、新バーコードによる表示のみが行われることとなります。

JANコードやITFコードの表示終了についてご留意いただくと共に、新バーコード表示の活用のため、関係実施要領の概要を改めてご紹介します。

2. 新バーコード表示の活用について

現在の「医療用医薬品へのバーコード表示の実施要項」（平成24年6月29日付け医政経発0629第2号・薬食安発0629第2号厚生労働省医政局経済課長・医薬食品局安全対策課長連名通知「「医療用医薬品へのバーコード表示の実施要項」の一部改正について」）では、表示対象は医療用医薬品（①特定生物由来製品、②生物由来製品、③注射薬、④内用薬、⑤外用薬）とし、包装形態の単位を3つⅠ）調剤包装単位、Ⅱ）販売包装単位、Ⅲ）元梱包装単位*¹に分け、医療用医薬品の種類及び包装形態の単位に応じて、商品コード、有効期限、数量及び製造番号又は製造記号の新バーコード*²表示を次の表1のとおり必須（「◎」）又は任意（「○」）で求めています。

(*1) 包装単位：以下の3段階の包装単位がある。

- ・調剤包装単位：製造販売業者が製造販売する医薬品を包装する最少の包装単位をいう。例えば、PTPシート、バイアル等である。
- ・販売包装単位：通常、卸売販売業者等から医療機関等に販売される最小の包装単位をいう。例えばPTPシートを100枚収納した箱等である。

- ・元梱包装単位：通常、製造販売業者で販売包装単位を複数梱包した包装単位をいう。例えば、販売包装単位である箱が10箱入った段ボール箱等である。

(*2) 新バーコード：日本工業規格X0509に規定するGS1データバー又は日本工業規格X0504に規定するコード128

表1 医療用医薬品へのバーコード表示の対象

医療用医薬品の種類	I) 調剤包装単位			II) 販売包装単位			III) 元梱包装単位			
	商品コード [※]	有効期限	製造番号又は製造記号	商品コード [※]	有効期限	製造番号又は製造記号	商品コード [※]	有効期限	数量	製造番号又は製造記号
①特定生物由来製品	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
②生物由来製品	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
③注射薬	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
④内用薬	◎*	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
⑤外用薬	◎*	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

注1：「◎」は必ず表示するもの（必須表示）、「○」は必ずしも表示しなくて差し支えないもの（任意表示）を示しています。

注2：「*」については、平成27年7月以降（ただし、年1回しか製造していないもの等特段の事情があるものについては平成28年7月以降）に製造販売業者から出荷されるものに必ずバーコード表示することとされています。

なお、販売包装単位及び元梱包装単位において任意表示としている項目（有効期限、数量及び製造番号又は製造記号。元梱包装単位の場合は、商品コードを含む。）については、バーコード表示が可能な製造販売業者から表示の実施を順次進めることとしています。これは、流通の効率化の観点からバーコード表示を求めるものですが、製薬企業によるバーコード表示が進み、医療機関、薬局及び医薬品卸売業者がこれを利活用したロット管理を行う等の正確かつ適切なトレーサビリティ確保策を講じることにより、患者の安全・安心の確保がより確実なものとなることが期待されています。

医薬品の取り違え事故の防止及びトレーサビリティの確保の観点から、新バーコードの活用をよろしくお願いします。

3. 医療用医薬品へのJAN/ITFコード表示の終了について

冒頭で述べましたように、医療用医薬品へのJANコード又はITFコード^{*3}表示終了の時期が近づいてきましたので、これらのコードを業務上利用している医療機関等にあつては、業務に混乱のないよう必要な対応を講じていただきますようお願いいたします。

(*3) JANコード：日本工業規格X0507に規定するバーコード

ITFコード：日本工業規格X0502に規定するバーコード

2 重要な副作用等に関する情報

【1】アスナプレビル、ダクラタスビル塩酸塩

当院臨時採用品

アスナプレビル：スンペプラカプセル100mg

ダクラタスビル塩酸塩：ダクルインザ錠60mg

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

【副作用（重大な副作用）】

多形紅斑：多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3. 医薬品安全対策情報

Drug Safety Update No. 239 (2015.5)

添付文書の改訂

★最重要と☆重要のみ当院採用薬を記載

☆デロキセチン塩酸塩（サインバルタカプセル/塩野義製薬＝日本イーライリリー）	
[副作用]の「重大な副作用」 追記	「悪性症候群： 悪性症候群があらわれることがあるので、発熱、無動緘黙、強度の筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧の変動、発汗、白血球数増加、血清CK（C PK）上昇等の異常が認められた場合には、投与を中止し、体冷却、水分補給等の全身管理と共に適切な処置を行うこと。また、ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下がみられ、急性腎不全に至ることがあるので注意すること。」
☆アジルサルタン（アジルバ錠/武田薬品）	
[副作用]の「重大な副作用」 追記	「肝機能障害： AST（GOT）、ALT（GPT）、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」
☆シタグリプチンリン酸塩水和物（グラクティブ錠/小野薬品）	
[副作用]の「重大な副作用」 一部改訂	「中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、多形滲出性紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症： 中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形滲出性紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」

4. 新規収載医薬品

2015年5月20日・28日（追補）

内用薬

アシテアダニ舌下錠 100単位（IR）・300単位（IR）	
製造・販売	塩野義製薬
分類	新有効成分 減感作療法薬
一般名	なし（ヤケヒョウヒダニエキス原末及びコナヒョウヒダニエキス原末を含有する舌下錠）
薬価	100IR1錠 67.10円 300IR1錠 201.20円
効能・効果	ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対する減感作療法
用法・用量	通常、成人及び12歳以上の小児には、1回100単位（IR）を1日1回舌下投与から開始し、1回投与量は100単位（IR）ずつ、300単位（IR）まで増量する。なお、漸増期間は、原則として3日間とするが、患者の状態に応じて適宜延長する。舌下投与後は完全に溶解するまで保持した後、飲み込む。その後5分間は、うがいや飲食を控える。
ノピコールカプセル 2.5μg	
製造・販売	東レ・メディカル
分類	新有効成分 選択的 κ オピオイド受容体作動薬。（既存のレミッチカプセル2.5 μ gと同一製剤）
一般名	ナルフラフィン塩酸塩
薬価	1C 1,795.00円
効能・効果	次の患者におけるそう痒症の改善（既存治療で効果不十分な場合に限る） 血液透析患者、慢性肝疾患患者

用法・用量	通常、成人には、ナルフラフィン塩酸塩として1日1回2.5 μgを夕食後又は就寝前に経口投与。なお、症状に応じて増量することができるが、1日1回5 μgを限度とする。
オズスミット錠 10mg	
製造・販売	アケリオンファーマシューティカルズ ジャパン
分類	新有効成分 エンドセリン受容体拮抗薬
一般名	マシテンタン
薬価	1錠 1,4594.00円
効能・効果	肺動脈性肺高血圧症
用法・用量	通常、成人には、マシテンタンとして10mgを1日1回経口投与する。
ザファテック錠 50mg・100mg	
製造・販売	武田薬品工業
分類	新有効成分 持続性選択的 DPP-4 阻害薬(週1回投与)
一般名	トレラグリプチンコハク酸塩
薬価	50mg1錠 559.20円 100mg 1,045.10円
効能・効果	2型糖尿病
用法・用量	通常、成人にはトレラグリプチンとして100mgを1週間に1回経口投与する。
サテルガカブセル 100mg	
製造・販売	ジェンザイム・ジャパン
分類	新有効成分 グルコシセラミド合成酵素阻害薬
一般名	エリグルスタット酒石酸塩
薬価	1C 76,925.90円
効能・効果	ゴーシェ病の諸症状(貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状)の改善
用法・用量	通常、CYP2D6 Extensive Metabolizer 及び Intermediate Metabolizer の成人にはエリグルスタット酒石酸塩として1回100mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。
レンビマカブセル 4mg・10mg	
製造・販売	エーザイ
分類	新有効成分 抗悪性腫瘍薬(キナーゼ阻害薬)
一般名	レンバチニ プメシル酸塩
薬価	4mg1C 3,956.40円 10mg1C 9,354.20円
効能・効果	根治切除不能な甲状腺癌
用法・用量	通常、成人にはレンバチニブとして1日1回24mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
ポマリストカブセル 1mg・2mg・3mg・4mg	
製造・販売	セルジーン
分類	新有効成分 サリドマイド誘導体
一般名	ポマリドミド
薬価	1mg1C 42,624.80円 2mg1C 50,802.00円 3mg1C 56,294.50円 4mg1C 60,548.00円
効能・効果	再発又は難治性の多発性骨髄腫
用法・用量	デキサメタゾンとの併用において、通常、成人にはポマリドミドとして1日1回4mgを21日間連日経口投与した後、7日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。
ソバルティ錠 400mg	
製造・販売	ギリアド・サイエンシズ
分類	新有効成分 核酸型 NS5B ポリメラーゼ阻害薬
一般名	ソホスブビル
薬価	1錠 61,799.30円
効能・効果	セログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善
用法・用量	リバビリンとの併用において、通常、成人にはソホスブビルとして400mgを1日1回、12週間経口投与する。

外用薬

エクリラ 400μg ジェヌエア 30 吸入用	
製造・販売	杏林製薬
分類	新有効成分 長時間作用性競合的ムスカリン性アセチルコリン受容体遮断薬 (LAMA)
一般名	アクリジニウム臭化物
薬価	30 吸入 1 キット 3,150.90 円
効能・効果	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎、肺気腫) の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解
用法・用量	通常、成人には 1 回 1 吸入 (アクリジニウム臭化物として 400 μ g) を 1 日 2 回吸入投与。
エクリエンクラッセ 62.5μg エリフタ 7 吸入用・ エリフタ 30 吸入用	
製造・販売	グラクソ・スミスクライン
分類	新用量医薬品 長時間作用性選択的ムスカリン受容体拮抗薬 (LAMA)
一般名	ウメクリジニウム臭化物
薬価	7 吸入 1 キット 1,479.50 円 30 吸入 1 キット 6,166.60 円
効能・効果	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎・肺気腫) の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解
用法・用量	通常、成人にはエンクラッセ 62.5 μ g 1 吸入 (ウメクリジニウムとして 62.5 μ g) を 1 日 1 回吸入投与する。
テュアック配合ゲル	
製造・販売	グラクソ・スミスクライン
分類	新配合剤 尋常性ざ瘡治療配合剤
一般名	クリンダマイシンリン酸エステル水和物/過酸化ベンゾイル
薬価	1g 157.40 円 (1 本 10g)
効能・効果	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、アクネ菌 <適応症> 尋常性ざ瘡
用法・用量	1 日 1 回、洗顔後、患部に適量を塗布する。
注射薬	
サイラムザ点滴静注液 100mg・500mg	
製造・販売	日本イーライリリー
分類	新有効成分 ヒト型抗 VEGFR-2 モノクローナル抗体
一般名	ラムシルマブ (遺伝子組換え)
薬価	100mg10mL1 瓶 75,265 円 500mg50mL1 瓶 355,450 円
効能・効果	治療切除不能な進行・再発の胃癌
用法・用量	通常、成人には 2 週間に 1 回、ラムシルマブ (遺伝子組換え) として 1 回 8mg/kg (体重) をおおよそ 60 分かけて点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。
ノボサーティーン静注用 2500	
製造・販売	ノボ ノルディスクファーマ
分類	新有効成分 遺伝子組み換え血液凝固第 XIII 因子
一般名	カトリデカコグ (遺伝子組換え)
薬価	2,500 国際単位 1 瓶 (溶解液付) 3,648,446 円
効能・効果	先天性血液凝固第 XIII 因子 A サブユニット欠乏患者における出血傾向の抑制
用法・用量	本剤を添付の溶解液全量で溶解し、2mL/分を超えない速度で緩徐に静脈内に注射する。体重 1kg 当たり 35 国際単位を 4 週ごとに定期的に投与する。なお、出血時に投与する場合、体重 1kg 当たり 35 国際単位を投与することができる。
ガドピスト静注 1.0mol/L シリンジ 5mL・7.5mL・10mL	
製造・販売	バイエル薬品
分類	新有効成分 非イオン性 MRI 用造影剤
一般名	ガドブトロール
薬価	60.47%5mL1 筒 5,114 円 60.47%7.5mL1 筒 7,457 円 60.47%10mL1 筒 9,745 円
効能・効果	磁気共鳴コンピューター断層撮影における下記の造影 脳・脊髄造影、軀幹部・四肢造影
用法・用量	通常、本剤 0.1mL/kg を静脈内投与する。

5. 臨時採用薬の紹介

☆ザイティガ錠 250mg 薬価 3,690.9円

効能又は効果… 去勢抵抗性前立腺癌

用法又は用量… プレドニゾロンとの併用において、通常、成人にはアピラテロン酢酸エステルとして1日1回1,000mgを空腹時に経口投与する。

注意：本剤は食事の影響によりCmax及びAUCが上昇するため、食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。

禁忌… 1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 重度の肝機能障害患者（Child-PughスコアC）

6. Q&Aコーナー

★抗生剤を服用していて、ヘリコバクター・ピロリ菌検査の尿素呼気試験で、判定に影響はあるか？
抗生物質・抗菌薬はすべて判定に影響を及ぼす可能性が高いとされています。下表に尿素呼気試験で偽陰性となる可能性のある薬剤についてまとめました。除菌前及び除菌後の感染診断の実施に当たっては、当該静菌作用を有する薬剤投与中止又は終了後2週間以上経過していることが必要です。

分類：成分名	偽陰性化の理由
PPI(プロトンポンプ阻害薬) オメプラゾール、ランソプラゾール、ラベプラゾール ナトリウム等	ピロリ菌に対する静菌作用 およびウレアーゼ活性抑制作用
抗生物質：アモキシシリン水和物、クラリスロマイシン、 テトラサイクリン等	ピロリ菌に対する静菌作用
抗トリコモナス薬：メトロニダゾール	ピロリ菌に対する静菌作用
ビスマス製剤：次硝酸ビスマス	詳細不明(古典的治療で使用)
防御因子増強薬：エカベトナトリウム水和物	ピロリ菌のウレアーゼ活性抑制作用

★セファメジンαのバイアルを生食で溶解後、冷所保存で結晶ができたが、使用可能か？
使用可能。室温に戻してよく振ると結晶がなくなる。

★PEGの時オメプラールとタケプロンODとどちらがよいか？

タケプロンODの方がよい。タケプロンは簡易懸濁法で投与できるが、オメプラールは不可のため。

★性器ヘルペスでのバルトレックス錠は、毎日ずっと飲み続けてよいのか？
続けてよい。

～バルトレックス錠の添付文書より（抜粋）～

【効能効果】 性器ヘルペスの再発抑制

【用法用量】 通常、成人には1回500mgを1日1回経口投与。なお、HIV感染症の患者(CD4リンパ球数100/μl以上)には1回500mgを1日2回経口投与する。

【使用上の注意】（抜粋）

2. 重要な基本的注意

(6) 本剤による性器ヘルペスの再発抑制療法は、性器ヘルペスの発症を繰り返す患者（免疫正常患者においては、おおむね年6回以上の頻度で再発する者）に対して行うこと。また、本剤を1年間投与後、投与継続の必要性について検討することが推奨される。

7. 抗生物質の溶解後の安定性について

当院採用の抗生物質の溶解後の安定性についてまとめてみました。残存率 90%以上の時間を表示しています。しかし、原則溶解後は速やかに使用してください。

医薬品名	室温	冷所	
アザクタム ²⁾	24 時間	48 時間	
アミカシン硫酸塩 ³⁾	7 日	7 日	
インダスト ²⁾ (先発品：チエナム)	6 時間	—	
塩酸バンコマイシン ¹⁾	24 時間	24 時間	
スルペラゾン ¹⁾	6 時間	48 時間	
セファメジン α ¹⁾	48 時間	48 時間	
セフトリアム塩酸塩 ²⁾ (先発：パンスポリン)	8 時間	—	
セフトジジム ¹⁾ (先発品：モダシン)	6 時間	72 時間	
セフトリアキソンナトリウム ²⁾ (先発：ロセフィン)	24 時間	24 時間	
セフメタゾン ¹⁾	24 時間	—	
ゾシン ²⁾	24 時間	72 時間(遮光)	
チエナム ¹⁾	4 時間	—	
パンスポリン ¹⁾	8 時間	8 時間	
ピペラシリンナトリウム ¹⁾ (先発：ペントシリン)	—	24 時間	
ファーストシン ¹⁾	12 時間	12 時間	
フルマリン ¹⁾	6 時間	24 時間	
ペントシリン ¹⁾	—	24 時間	
ホスミシン S ²⁾	24 時間 7 日 (遮光)	7 日 (遮光)	
ミノサイクリン塩酸塩 ¹⁾	12 時間	—	
メロペネム ¹⁾ (先発品：メロペン)	6 時間	24 時間	
メロペン ¹⁾	6 時間	24 時間	
ユナシン - S ²⁾	バイアル	24 時間	24 時間
	キット	6 時間	24 時間
硫酸ストレプトマイシン ²⁾	24 時間	24 時間	
ロセフィン ²⁾	24 時間	7 日	
ワイスターール ¹⁾ (先発：スルペラゾン)	6 時間	48 時間	

参照：添付文書¹⁾ インタビューホーム²⁾ 注射薬監査マニュアル³⁾